

まごころ通信

教育長コラム

～学びを深める話し合いとは～

保護者の授業参観の時などに、こんな授業を時々見かけることがあります。それは、対立した意見を話し合わせるものです。

例えば「ここにごみ置き場を設置することに、A賛成か B反対か」というような討論会があります。このような授業では、それぞれの立場から多くの意見が出され、話し合いは一見活発であるように見えます。授業後、保護者は口々に「子ども達が活発に発言し、とても良い授業だった」と言っているのをよく耳にします。

発言が多ければ本当に良い授業なのでしょうか。私には、そうは思えません。このような話し合いでは確かに発言は多く、たくさん子ども達が自分の意見を述べます。しかし、そこには友達の意見を共感的にしっかりと受け止め、理解をしようとする姿勢が見られません。

反対に、こんな授業もあります。ひとりの発言の後、次の発言者が発言するまでの時間が長く、発言の数が少ない、というものです。しかし、子ども達は発言をじっくりと受け止め、その間自分の考えと比較検討をしており、ノートはメモでいっぱいになります。ノートを覗くと、意見を聴く前と後で考えが変わっていたり、深まったりしていることが見て取れます。

このような話し合いのできるクラスの授業に共通して言えることは、

◎教師が子ども達一人ひとりの話をじっくりと共感的に聴いている。

◎子ども達同士が決して自分の発言を急がず、話し手の言いたいことを理解するまで質問を繰り返す姿が見られる。

話し合いとは、まず聴くことから始まり、

- 1 自分の考えは一度置いておいて、全体を受け止め、話し手の考えを共感的に理解すること。
- 2 自分の考えと話し手の考えを比べ、自分の考えが本当に良いのか自問自答すること。
- 3 友達の考えを参考に、自分の考えを更に深めたり高めたりするために考えること。さらには、この他にもっと良い考えがないか検討すること。

だと私は考えています。

はじめから反対するための意見を述べるための話し合いでは、思考力や判断力の向上はおろか、相手の考えを受け止め、理解することすらできません。話し合いを通して、友達の良さを感じたり良い人間関係を構築したりするのには程遠いのです。話し合いには、相手の意見をじっくりと聴き、共感的に受け止めて自分の考えを高める姿勢や努力が必要で、じっくりと時間をかけることが大切です。

「話し合う」とは、決して口舌の徒を育てることではありません。自分の思いや願い、考えを語り、他者のそれに耳を傾け、自分の（自分たちの）思いや願い、考えをより確かな、より深く高度なものにする活動であり、それは他者へ感謝し、より良い人間関係を構築するものでもあるのです。



小田原市教育委員会教育長

柳下正祐



新しい給食センターのメニューを紹介！

令和7年4月から新しい学校給食センターの給食提供が始まりました。

新しい学校給食センターは、より高度な衛生管理ができる施設となり、これまでランチプレートだった食器も、個別の食器とトレイに変わりました。

また、新しい調理機器も導入され、新しいメニューが提供できるようになり、献立の幅が広がっています。

真空冷却機



真空冷却機は、加熱した食材を10℃以下まで急速に冷却することができ、和え物やサラダの調理を行うことができます。
野菜もシャキシャキとした食感になります。

真空冷却機を使ったメニュー



←小松菜のおひたし

生徒の感想

冷たいおかずがたまに
でるとうれしい♡

今までになく、新鮮で
おいしい！

新しい学校給食センターを紹介します

【場所】小田原市成田 1111-2

【面積】2,291.09 m²

【構造】鉄骨造2階建て

【提供食数】3,800 食

【配食される学校】8中学校

(城山、白鷗、白山、鴨宮、千代、
酒匂、泉、城北)



2階から調理の様子を見学できます！



煮炊き室



揚げ物・焼き物室